

教育理念			●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。								
学校教育目標			●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。								
	中期経営 目標	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	何を学ぶか (資質・能力)	どのように学ぶか実施するか (手立て)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価	
めざす子供像	思いやりのある子供	●自分の好きなところを見つけることができる。(100%)	自己理解力 他者理解力	●認める、褒める、勇気づける学級経営をする。 ●思いやり週間に「思いやりの木」を作成する。 ●キャリアパスポートに記録させる。	児 80%	児 82%	B 95% - 4	【いつ】2学期から 【だれが】担任が 【どこで】朝学の時間 【何を】〇〇さんのいいところをがしなどのエクセサイズを 【どうする】学期に1～2回行う。書いたカードは、本人はもちろん、家に持ち帰り、親からも付け足してもらったり、褒めてもらったりすることで、自己肯定感を高めていく。 【いつ】2学期から 【だれが】担任が 【どこで】学活の時間や帰りの会に教室で 【何を】児童の長所を 【どうする】自覚できるような活動を行う。 【いつ】2学期から 【だれが】職員全員が 【どこで】学校で 【何を】QUで非承認群や不満足群にいる児童に対し、認め、褒め、勇気づける声掛けを 【どうする】重点的に行う。 【いつ】2学期から 【だれが】担任外が 【どこで】職員室で 【何を】児童のよさを 【どうする】付箋などを書いて担任に知らせる。担任は、それを本人が自分のよさとして受け止められるように重ねて声を掛け、記録していく。 ※アンケートの文言を「自分の好きなところ」→「自分のよいところ」に変更する。	●「思いやりのある子供」では、＜短期目標＞に「自分のよいところ」の他に、「自分の得意なこと」をくわえてはどうか。また、＜何を学ぶか＞のところに自己肯定感を加えてはどうか。更に、教育相談アンケートからも、「自分の好きなところ」の肯定感は低い。周囲の反応を気にする児童が多く、自分を卑下しがちである。その意識を変えていく必要がある。すぐに変わることはないので、継続して指導をしていくことが大切である。次年度、学級活動の時間、高学年を対象に、SCを活用して、自己肯定感を高められるような授業を展開してもらってはどうか。 ●「思いやりのある子供」では、来年度から担任と保護者が、個人懇談や「のびゆくすがた」を通して、児童一人一人のよさを共有し、長期的に本人が自分のよさを認められるように、認め、褒め、勇気づける声掛けを継続して行う。 ●「自分から学ぶ子供」では、来年度、担任が学活の時間に、教室で児童にタブレットの使い方を確認する。また、保護者にも家庭での使い方について確認してもらう。	●「自分の好きなところをみつけることができる」で児童の肯定率が低いのは、家庭での親との関係が大きく関係するところで、保護者の肯定率が87%から95%になったのは、学校の働きかけが保護者の意識を変えたと考えられる。改善点にあけてある対策を継続することで子どもの肯定率も上がってくるのではないかな。 ●考察にある通り、児童の自己肯定感が低い点については、継続した指導が必要。保護者にも子供のよいところ・得意などを書いてもらい担任・児童と共有してはどうか。 (保護者に認めてもらうことで、自己肯定感が高まることが期待できるのでは) ●めざす子供像については、自己肯定感を自覚できる取り組みをしているということですが、学校で先生方ががんばってくれても、親にも伝わらないと、うまく行かないのではないかと思います。子供が自分の肯定感を感じるために、親がどのような声かけをしたらよいか、親の協力が得られれば、でもみんなそんなやり方も親はわからないので保護者向けの勉強会とか(心理学的な勉強)できたらいいのでは。	
		●友だちのよいところを見つけることができる。(100%)			保 87%	保 95%					
					教 93%	教 100%					
					児 92%	児 94%					
					保 95%	保 98%					
					教 100%	教 100%					
	自分から学ぶ子供	●友だちと学び合うことができる。(95%)	探究心	●授業ごとに振り返りをして記録に残させる。 ●家庭と連携し、家庭学習を充実させる。	児 94%	児 95%	A 93% + 0.5				
		保 94			保 95%						
		教 100%			教 100%						
		児 89%			児 90%						
		保 86%			保 80%						
		教 93%			教 100%						
	元気な子供	●進んで楽しく体を動かすことができる。(95%)	自立自律力 自己管理能力	●体育の充実、共遊の活用を図る。 ●早ね早起き朝ごはんの啓発をする。 ●健康管理に関する正しい知識・理解を指導する。	児 89%	児 93%	B 92% - 0.5				
		保 94%			保 90%						
		教 93%			教 88%						
		児 94%			児 91%						
		保 93%			保 89%						
		教 93%			教 100%						

教育理念			●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。								
学校教育目標			●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。								
	中期経営目標	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	何を学ぶか (資質・能力)	どのように学ぶか実施するか (手立て)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価	
めざす学校像	安心できる学校	●誰かに相談することができる。(90%)	行動力	●学期ごとに教育相談を実施し、記録を残す。 ●Q－Uを実施し、その結果を学級経営に生かす。	児 85%	児 83%	B 93% － 2	【いつ】2学期から 【だれが】担任が 【どこで】日常生活で 【何を】子供の様子を 【どうする】観察し、変化を捉え、一人一人に声をかけていく。気になる児童は、児童指導主任へ連絡する。(窓口の1本化) 【いつ】11月の教育相談 【だれが】担任以外教職員が 【何を】子供の様子を 【どうする】相談者として、積極的に関わっていく。教育相談の重要性を再認識し、計画的に行う。	●「安心できる学校」では、市教育相談員に定期的に来てもらうことになって、相談人数も増えている。専門的なアドバイスがいただけるので、次年度も継続して来てもらえるようお願いしたい。また、保護者も、SCの利用が増え、わが子を理解し接し方を考える機会になるなど効果が上がっている。必要な人に専門的な相談がつけられるよう今後も継続していく。	●「地域とともにある学校」では、地域のボランティアが入っている時間に授業参観にきてもらうのも良いのではではないでしょうか？地域の人と保護者が一緒にボランティアする機会を増やせるよう、保護者のボランティア参加をPTAの集まりの場で働きかけをして欲しい。	●担任は、ゆとりをもって学級活動を行って頂きたいので、業務削減は賛成。具体的には削減したい業務内容を提示して、保護者、ボランティア等に協力依頼するのはどうか。
		●学校は楽しいと感じることができる。(100%)			保 88%	保 90%					
					教 100%	教 100%					
					児 90%	児 91%					
					保 92%	保 92%					
					教 100%	教 100%					
	満足できる学校	●授業がわかる、できる。(90%)	気づく力	●学期ごとにアンケートを実施する。 ●学期ごとに自分の成長を振り返る時間を確保する。	児 92%	児 95%	A 96% ＋ 6	【いつ】2学期から 【だれが】教育相談係が 【何を】外部の専門機関を 【どうする】積極的に活用する。特に、鈴木先生が来校した際は、係が校内放送して児童に知らせ、ひとりじゃなくても、たいしたことなくても相談できることを伝え、気軽に話せる環境を整える。 【いつ】2学期からアンケートを実施するときに、 【だれが】担任(教頭)が 【どこで】教室(文書・ホームページ)で 【何を】教育活動例を 【どうする】ボランティアが来ていることを知らないことが考えられるので、具体的に示す。	●「安心できる学校」では、担任は日々の業務で忙しく、ゆとりがないのが現状である。ゆとりがあれば、もっと子供たちに目が向けられると思うので、業務の削減をお願いしたい。	●「地域とともにある学校」では、保護者は、地域と連携した教育活動が何か分かっていないのではないか。「ボランティアを活用した教育活動」に文言を変えてはどうか。	●コミュニケーション力で、保護者肯定率が、児童、教職員に比べかなり低いところが懸念される。担任と保護者の情報共有が必要と考える。
		●成長を感じることができる。(90%)			保 88%	保 87%					
					教 93%	教 100%					
					児 91%	児 95%					
					保 98%	保 96%					
					教 100%	教 100%					
	地域とともにある学校	●連携した教育活動ができる。(95%)	コミュニケーション力	●連携予定の教育活動を教育課程に盛り込む。 ●子供同士が考えを出し合い実行するよう支援する。 ●進んで気持ちのよい挨拶をするよう指導する。	児 78%	児 80%	B 85% － 7.5	【いつ】2学期に 【だれが】担任が 【どこで】学年便りで 【何を】地域の方と学習した様子を 【どうする】紹介し、地域と連携した教育活動を行っていることを児童と保護者に強く印象づける。	●「地域とともにある学校」では、来年度、担当者が、学校ホームページで、地域の方と学習している様子を年間を通して紹介するコーナーを作り、大沢小が地域と連携した教育活動を行っている学校であることを児童と保護者に強く印象づける。	●「地域とともにある学校」では、学期始めに、係がボランティア内容一覧を保護者に配付する。	●社会で、集団生活で大切なコミュニケーション能力や地域との連携ですが、コロナの壁が立ちただけ思い通りに活動できないのが現状ではないのでしょうか。学校・家庭・地域が三位一体となつての取り組みがますます必要になると思われます。(何が出来るか考えます。
		●地域の方に挨拶・感謝することができる。(90%)			保 73%	保 64%					
					教 93%	教 94%					
					児 93%	児 94%					
					保 85%	保 81%					
					教 93%	教 94%					

教育理念			●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。							
学校教育目標			●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。							
	中期経営 目標	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	何を学ぶか (資質・能力)	どのように学ぶか実施するか (手立て)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価
めざす職員像	教育愛のある職員	●子供のよさを認め、伸ばすことができる。(90%)	見取る力	●一人一人のよさを記録し、学級だより等に掲載する。 ●研修会に参加する。	児 94%	児 92%	A 94% + 4	【いつ】月に1度、 【だれが】教務が 【どこで】職員会議で 【何を】全職員に伝えることを 【どうする】具体的に説明したり、資料を準備したりする。 【いつ】行事や成績など、自分以外の学年や職員が関わって遂行しなければならない事があるときは 【だれが】職員が 【どこで】職員会議で 【何を】計画を 【どうする】最低でも1か月前に連絡調整を行い、全員に周知する。 【いつ】2 学期から 【だれが】教頭が 【どこで】校長室で 【何を】企画委員会を 【どうする】月 1 回実施する。その際、議題の内容は、①学校行事に関すること②学習指導に関すること③児童指導に関すること(特性や配慮を要する児童も含む)④保健指導に関すること⑤特別支援教育に関すること、とする。次第は教頭が作成する。 ●次年度も、「中間目標」「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を継続して実施していく。	●子供たちの良き相談相手であり、時には兄弟のように、時には親代わりのように、時には厳しく、分け隔てなく接してほしい。 ●児童、保護者、教職員すべてにおいて高い肯定率がすばらしいです。日々研修・研究・指導がありとうございます。大沢小学校が、めざす職員像に向けて、さらなるご活躍を期待しています。 ●謙虚さの中に、自信あふれる指導ぶりが何えて児童は幸せいっぱいでしょう。 ●教育者として、人間として、人生観を確立していくことは、最も大切な課題だと思います。その1つとして「めざす職員像」の方向を示しているのは賛成です。 ●毎日煩雑な業務をこなしている先生方には、本当に頭が下がります。教員免許を持っていないくても出来る仕事なのに・・・という場面を見受けることがあります。何とかならないものかと思っています。学校支援ボランティアで出来る事はどんどんお任せください。 ●コロナの事もあり、いろいろ制限がある中で大変かと思いますが、がんばってほしいと思います。	
		●子供の特性を理解し、寄り添うことができる。(90%)			保 97%	保 93%				
					教 100%	教 100%				
					児 95%	児 94%				
					保 92%	保 91%				
					教 94%	教 94%				
	謙虚さのある職員	●相談すること、相談にのることができる。(95%)	包容力	●個別の行事計画書を作成する前に相談し合う。 ●教育活動後に反省を行い、次年度の計画を立てる。	児 98%	児 94%	A 96% + 3.5			
					保 93%	保 93%				
					教 94%	教 100%				
		●他の意見考えを取り入れることができる。(90%)			児 98%	児 94%				
					保 96%	保 93%				
					教 100%	教 100%				
	自分から学ぶ職員	●先を見通した教育活動の準備をすることができる。(90%)	研究力	●1 ヶ月分の予定(週案など)を作成する。 ●教育相談、アンケート調査を定期的に実施する。 ●職員座談会をひらく。	児 98%	児 97%	A 96% + 6			
					保 98%	保 99%				
					教 80%	教 94%				
		●学び合い、専門性を高めることができる。(90%)			児 98%	児 97%				
					保 97%	保 95%				
					教 87%	教 94%				

教育理念			●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。								
学校教育目標			●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。								
	中期経営 目標	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	何を学ぶか (資質・能力)	どのように学ぶか実施するか (手立て)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価	
めざす授業像	主体的な授業	●課題を粘り強く追究することができる。(90%)	見通す力	●めあてを明確にする。 ●毎時間、学習過程を掲示する。(見える化) ●発問を工夫する。	児 92%	児 93%	A 93% + 0.5	【いつ】2学期から 【だれが】授業者は 【どこで】授業で 【何を】振り返りの書き始めの言葉を提示したり、キーワードを使って文章を書かせたりして、ふりかえりの充実を 【どうする】目指す。そのためには、授業プランをしっかり立て、タイムマネジメントし、振り返りに十分な時間を確保することが大切である。さらに、ふりかえりと評価を関連させ、授業を改善していく。教師自身がロイロノートなどタブレットのスキルを高めていく。 【いつ】各教科の時間に 【だれが】授業者が 【どこで】授業で 【何を】振り返りの時間を 【どうする】十分にとる。書くことだけが振り返りではないので、質問を検討するとうい 【いつ】2学期に 【だれが】担任が 【どこで】学年便りで 【何を】児童の振り返りを 【どうする】保護者に紹介する。	●「深い学びのある授業」では、まず教師が、今日は何を狙っているのか考え、深い学びを意識して取り組むことが第一である。次に「振り返り」の時間を確保すること。提出したら終わりではなく、共有を図っていくことが重要である。次年度、講師を招いて、全職員がロイロノートの活用・「振り返り」の共有の仕方を学ぶなど現職教育で研修をしていく。 ●「深い学びのある授業」では、各教科の時間に、授業者が、授業で、振り返りの時間を十分にとるようにする。また、よい振り返りの例を示すようにする。	●授業についていけない子供に対して、低学年の時は対応に苦労したが、高学年になったら、学年でもトップクラスになったと、指導してほしい。 ●保護者肯定率が、全体的に低いところが懸念される。今年度は、授業を観る機会が少なく、子供がどのような授業を受けているのかが分からないのが現状であると考え。お便り・ホームページ・タブレット等で保護者へ共有するのはどうか。 ●考えさせるより、深く追求されている教師の姿に感動！！対教師、対児童の感性の中にあふれています。 ●むずかしい課題(能力)を引き出そうとする先生方の工夫、ありがたいです。加えて、グレーゾーンにいる子どもへの対応、工夫もお願いします。 ●基礎学力の定着のため、朝の学習の時間を活用して、計算や漢字のミニテストを実施する等、地道に繰り返す事で力がつくと思います。 ●学校、保護者、生徒ともアンケートでは良い結果が出ているのではないかと。	
		●ゴールを理解することができる。(95%)			保 86%	保 83%					
					教 100%	教 100%					
					児 95%	児 97%					
					保 86%	保 84%					
					教 93%	教 100%					
	対話的な授業	●友だちの意見を聴くことができる。(90%)	コミュニケーション力	●「話の聴き方」を配付し具体的な指導と支援をする。 ●「友だちへの訊き方」を配付し具体的な指導と支援をする。	児 97%	児 98%	A 95% + 5				
		●分からないことを訊くことができる。(90%)			保 98%	保 93%					
					教 100%	教 100%					
					児 90%	児 95%					
					保 84%	保 84%					
					教 100%	教 100%					
	深い学びのある授業	●授業からの学びを自分の言葉で表現できる。(90%)	応用力	●授業の振り返りをする。(期待する姿を明示する。) ●前時からのつながりを意識した課題を設定する。	児 92%	児 89%	A 90% + 0				
		●授業からの学びを次時に生かすことができる。(90%)			保 79%	保 79%					
					教 86%	教 94%					
					児 95%	児 92%					
					保 90%	保 84%					
					教 93%	教 100%					

教育理念		●全ての子供の学びを保障する。 ●全ての子供の命を守る。					
学校教育目標		●人間性豊かで意欲的に学び、生き生きと活動する児童を育成する。					
	何ができるようになるか (アンケート短期目標値)	7月末 肯定率	12月末 肯定率	評価	前期肯定率を受けての改善点	後期肯定率を受けての考察	学校関係者評価
その他	●安全に生活して交通ルールを守ることができる。(100%)	児 99%	児 98%	B 98% - 2	【いつ】2学期から 【だれが】係が 【何を】地域ボランティアの活動を児童も保護者も当たり前になってしまっているので、地域連携の活動を 【どうする】地域連携の活動とわかるように伝えていく。例えば、ボランティアルームに活動が掲示してあるがあまり目に触れないので、係が昇降口の「青空班活動」の掲示板などを利用して、多くの人の目に見えるように掲示を工夫する。 【いつ】お知らせ等がある時に、 【だれが】管理職が 【どこで】保護者一斉メールで 【何を】「このお知らせは、ホームページにも掲載されますので、ホームページもご覧ください」という文面を 【どうする】メール送信する。 【いつ】2学期に 【だれが】担任が、 【どこで】毎月の学年便りで 【何を】学校ホームページのQRコードを 【どうする】載せて、見てもらうように宣伝する。	●「大沢小学校のホームページを見ている」では、他校の様子を聞くと、64%は悪い数字ではない。短期目標を70%に下げてよいのではないかな。 ●「大沢小学校のホームページを見ている」では、今年度中に、全職員が、会議で学校ホームページの内容が、保護者にとって見る必要性や魅力があるものになるように、載せる内容のアイディアを出し合うのはどうか。 ●「大沢小学校のホームページを見ている」では、来年度から、学校が、ホームページの日を設定し、児童はタブレットを通して保護者にホームページを見せるのはどうか。	●ホームページに関しては記事が少ないので一回見ると行事がなければ見ないと思います。ホームページの活用は配信者の技術によると思います。安全に生活して交通ルールを守るや、動植物の世話の様子を知らせるとか、ボランティアの様子などの情報をもっと配信するとホームページを見るとともに学校の宣伝にもなると思います。 ●地域連携では、例えばホームページで『○月○日○時～○時まで○年生の授業のボランティアを募集しています。地域の方も来ていただきますが、足りないのでお手伝いいただける方はいませんか?』のように呼びかけを行うことはどうでしょうか? ●ホームページを見てもらう方法として、学校より配信される連絡メールからHPのお知らせページへリンクしてはどうか。(HPアドレス添付も可) ●ホームページに関しては、他校は週2、3回の更新だったりしますが、1日に複数回UPして下さるので、時間が空くとどのぞいてしまいます。もちろん給食のページは大好きです。
		保 98%	保 97%				
		教 93%	教 100%				
	●動植物の世話や掃除をきちんとしている。(90%)	児 96%	児 94%	A 97% + 7			
		教 100%	教 100%				
	●学校は情報を積極的に発信・提供している。(90%)	保 92%	保 91%	A 91% + 1			
	●教職員は、保護者に対して誠意をもって接している。(90%)	保 95%	保 93%	A 93% + 3			
	●大沢小学校のホームページを見ている。(80%)	保 66%	保 64%	C 64% - 16			